



株式会社かねひで総合研究所

☎098-917-2256 ✉momokokinjo@kanehide.co.jp

📍〒900-0029 沖縄県那覇市旭町112-1 金秀ビル東館2階

【業務内容】 教育企画、各種研修全般 【担当部署】 教育企画部



学校等への可能な協力

- ▶ 講師派遣
- ▶ 生徒の取り組み・発表への助言など

一緒に楽しくSDGsを学びましょう

担当者 金城桃子さん



代表的な事業内容

出前講座で「みんなで未来を」

子どもたちに、持続可能なよりよい未来を残すためには、今からSDGsの取り組みを進めていかなければなりません。かねひで総研では、小学校、中学校、高校、各種団体向けにSDGs出前研修を行っています。

SDGsカードゲームやボードゲームを通して楽しく学んでもらうことに加え、児童・生徒・学生の皆さんには地元の大学生が取り組むSDGsの活動紹介、企業・一般の皆さんには企業

などのSDGsの取り組み事例も紹介しています。「SDGsの言葉は聞いたことあるが、何から始めていいかわからない」といった課題解決のお手伝いもしていきます。

金秀グループでは女性の管理職・役員の登用を進めており、女性や若い男性などすべての社員が働きやすい環境作りを進めています。男性管理職の意識改革を目的とした研修なども行っています。

さらに、これからはビーチクリーンや平和学習などのプログラム、子どもたちの未来がワクワク楽しみになるような企業研修なども企画していきます。一緒にSDGsの活動を普及していくファシリテーターの養成も行っており、沖縄県の皆さんと共に「誰一人取り残さない」SDGsの推進活動ができれば幸いです。



要望聞いて内容構成

SDGsゲームを実施することに加え、大学生の活動紹介や企業の活動紹介など皆さんのご要望にお応えして研修を組み立てることができます。

課題

小・中・高校へSDGs研修を進めていきたいのですが、予算の問題もあるようです。沖縄県や市町村の教育委員会と連携し進めていけたらと思います。

未来像

沖縄県の皆さんと共にSDGs活動を普及し、子どもたちや孫たちによりよい未来を残すことができるとと思います。





株式会社 トリム

☎098-998-6023 ✉tamanaha@trims.co.jp

📍〒901-0503 沖縄県島尻郡八重瀬町新城1763-1

【業務内容】 製造業（ガラスびんから人工軽石を製造）

【担当部署】 リサイクル事業本部

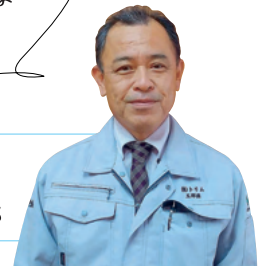
学校等への可能な協力

- ▶施設や工場の見学
- ▶講師派遣
- ▶資料や教材の貸し出し
- ▶生徒の取り組み・発表への助言など

実物を持参して
出前講座もやっています！

担当者

玉那覇毅さん
リサイクル事業本部



代表的な事業内容

廃ガラスを軽石に

今から約27年前、トリムが経営する居酒屋で毎日大量に捨てられるガラスびんがどう処理されているのか調べてみて、きれいな沖縄の自然の中に埋め立てられていることを知りました。このガラスびんを何とかできないかと考えて、トリムのガラスリサイクルへの挑戦が始まりました。

まず最初に、ガラスを砕く機械を開発し、粒になったガラスをアスファルトやブロックに混ぜて利用する方法を考えました。しかし、はがれてし

まえばまた「ごみ」になるため、他の方法を考えました。小麦粉からパンや麺を作るように、ガラスも粉にすると面白いものができるかもしれないと工夫を重ねて、ガラスびんから軽石（かるいし）を製造することに成功しました。ガラスをまず粒（8mm）にし、次に粉（30ミクロン）にして、添加材（ふくらし粉）を混ぜ、最後に700～900℃で焼くと、ガラスの粉は大きく膨らみ、ガラスとは見た目も性質も違う軽石（スーパーソル）が

できました。

スーパーソルは焼き加減によって重さが違うもの、水を吸うもの・吸わないものなど、いろいろなタイプを作ることができます。その特徴に合わせて、植木鉢の底に敷く、畑の水はけを良くする、植物の生育を助ける、養殖場や池の水をきれいにする、土木工事の材料にするなど、多くの用途・場所で使われています。



多様な利用法で全国に

ガラスびんをリサイクルするには、ほとんどの場合、びんの色で分ける必要がありますが、トリムのリサイクル方法は色分けの必要がありません。ガラスのリサイクル施設は全国にもたくさんありますが、ガラスびんを多様な場所で使える商品にする技術は全国、世界でも珍しいです。スーパーソルの活用は、北海道から沖縄まで全国13カ所、海外1カ所に広がっています。

課題

スーパーソルの活用法にはまだまだ可能性があります。多くの業者や研究者などと協力しながら、さらに多くの用途で使えるように研究や開発を進めなければなりません。

未来像

将来的には全国47都道府県すべてにスーパーソル製造装置を設置して、海外にも広げていきたいと思えます。捨てればごみ、活かせば資源。沖縄から全国へ、そして世界へ！



ビニール袋を使わず新聞紙で作ったエコ袋



生活協同組合コープおきなわ

☎098-879-1144 ✉ yokuda@okinawa.coop

📍〒901-2588 沖縄県浦添市西原1-2-1

【業務内容】小売業 【担当部署】総合推進室

「誰かの笑顔につながるお買い物」を意識しましょう

学校等への可能な協力

▶ 資料や教材の貸し出し・提供など

担当者

與久田喜美子さん
総合推進室 室長



代表的な取り組み

買い物で笑顔と安心を

SDGs17の目標のうち次の3つを優先的に進めています。

(1) 「つくる責任、つかう責任」

「倫理的な消費」を意味するエシカル消費を推進します。消費者が環境や社会に配慮した商品を選ぶことで持続可能な社会の実現を目指します。コープおきなわではエシカル消費を「誰かの笑顔につながるお買い物」と呼び、次のような商品があります。

① 海や森の資源に配慮して生産された主原料を使った「coopサステナブル商品」

② 飢餓に苦しむ子どもたちや持続可能な生産活動などへ「社会貢献の寄付金付き商品」

③ 生産者と消費者が信頼関係で結ばれ、お互いを支え合う「産直商品」

(2) 「住み続けられるまちづくり」

誰もが安心して暮らし続けられるよう、協同購入の商品や夕食を宅配する際に、利用する組合員や地域の高齢者に気になることがあれば、事前に取り決めた連絡先や自治体が指定する窓口ご連絡します。41市町村のうち17市町村・市町村社会福祉協議

会と連携しています。

(3) 「平和の取り組み」

沖縄では過去の戦争ですべてが破壊され、多くの人々が亡くなりました。「家族を戦争で失いたくない」「子どもたちに平和な社会を残すために、小さくてもできることはないか」—そんな思いを原点に、平和活動を続けています。6月23日の慰霊の日に毎年行うファミリーピースウォーク（平和行進）は2021年度29回となりました。



消費者の行動変える

コープおきなわは、消費者が自分たちの暮らしを良くするためにお金を払って作った組織です。購買事業（協同購入や店舗で商品を提供すること）では、エシカル消費に対応した商品を増やし、組合員さんがエシカル消費を学び合う「くらしづくり活動」も進めています。購買事業とくらしづくり活動の両方に取り組むことで、消費者の行動が変化し、社会を変える大きな力になると考えています。

課題

たくさんの課題はコープおきなわだけでは解決できないので、地域のいろいろな団体とのネットワークや、協働の輪を広げることが大切だと考えています。参画する方法や広報に工夫を重ね、より多くの方に関わってもらいたいと考えています。

未来像

「つながる力で 未来をつくる」（日本の生協の2030年ビジョン）。世界中の人々や国々、企業・団体がお互いに認め合い、助け合って、「誰一人取り残さない、持続可能な世界・社会」が実現している未来を目指します。

